

総務産業常任委員会

平成30年2月2日（金）

午前10時00分開 会

○三鬼（和）委員長 おはようございます。

ただいまより総務産業常任委員会を開会いたします。

本日の検討事項でございますが、平成22年2月26日に海洋深層水取水管が船舶の投錨の際に損傷したということから、23年2月に5基の灯浮標と2基のレンジライトを設置しております。さきの議会におきまして、この耐用年数が来たのの取りかえについて執行部から提案があり、議会のほうより再考すべきというような形で予算が減額された経緯がございます。そういった中で、執行部といたしまして、新たに議会の提案を受け、検討した結果、今後の方向性について、委員会のほうに示したいということで本日の会議となりました。そういったことを執行部のほうから説明していただきますので、委員の皆さんにはよろしく申し上げます。

それでは、最初に、市長のほう。

○加藤市長 おはようございます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、総務産業常任委員会を開催していただきましてまことにありがとうございます。

本日は、先ほど委員長のほうからのお話もございましたとおり、海洋深層水にかかわる灯浮標係留索の取りかえ方針について報告事項がございますので、よろしくお願い申し上げます。

簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。よろしく申し上げます。

○三鬼（和）委員長 それでは、担当課より説明願います。

○野地水産商工食のまち課長 そうしましたら、資料を通知させていただきますので、よろしくお願いいたします。通知いたします。

水産商工食のまち課です。よろしくお願いいたします。

今回につきましては、先ほど御説明のありましたとおり、海洋深層水に係る灯浮標係留索について、先般の12月定例会において、2年間実施いたしました調査結果等の報告もさせていただいておりますが、本日3月の定例議会に先立ち、取りかえ方針について説明させていただきたいと思っております。

詳細につきましては、担当の係長より資料に基づいて説明しますので、よろしく

お願いいたします。

○ 苫谷水産商工食のまち課係長 それでは、海洋深層水に係る灯浮標係留索の取りかえ方針につきまして、資料に沿って御報告いたします。

灯浮標につきましては、海洋深層水取水管損傷事故の再発防止策として、平成23年2月より5基の灯浮標と2基のレンジライトを設置し、安全対策を図っておるところでございます。

設置から7年が経過しようとしており、平成29年9月に実施いたしました送水管B灯浮標係留索の潜水調査において、最も摩耗、腐食している部分の摩耗率が50%という結果でありました。独自で設けた交換目安基準に達しており、また、一般的には船舶のアンカーチェーンや灯浮標の係留索については、10%から20%の摩耗率で交換しており、現状の本市の係留索については安全性が確保できないと判断し、平成30年度での係留索の取りかえを実施したいと考えております。

この図は、灯浮標とレンジライトの位置図でございます。レンジライトにつきましては、古江アクアステーション付近と三木里海岸に1基ずつ設置しております。灯浮標につきましては、取水管側が右からA、B、C、送水管側が下からA、Bとなっております。

2ページをごらんください。

上が灯浮標Aの写真、下が係留索の詳細図でございます。

3ページをごらんください。

写真は、三木里海岸に設置しておりますレンジライトの写真でございます。

続きまして、潜水調査の結果でございます。本市の灯浮標については、チェーン径30ミリのものを使用しております。スタッド連結部については60ミリが基準値となります。平成28年10月と平成29年9月の結果を表にいたしましたが、平成29年9月の調査結果のみ報告いたします。

スタッド欠落箇所の測定値が38ミリ、摩耗率36.6%、側部最大摩耗計測値は15ミリ、摩耗率50%、スタッド欠落については17カ所となっております。写真は摩耗しているチェーンの写真を掲載させていただいております。

次に、取りかえ方針でございますが、取水管に沿って古江側に3基、送水管に沿って三木里側に2基設置しております灯浮標について、取水管側のみ2基の設置とし、取水管側1基と送水管側2基については引き揚げ、交換用として陸上で保管したいと考えております。

設置する取水管側2基につきましては、事故発生付近である取水管Cと隣接する

取水管Bの2基とする方針といたします。場所を2カ所にした理由といたしましては、一つ目、海図、水路誌で周知がされている。海図には敷設当初より記載がされており、また、水路誌においては、事故後に発行された平成23年3月刊行本から「三木里港と古江漁港との間の海域及び古江漁港から湾外へ続く海域には海底輸送管（海洋深層水）が敷設されているので、付近に投錨する際は注意を要する。」と記載されております。

二つ目、古江小型船組合と委託契約している、みえ尾鷲海洋深層水取水管等ルート付近監視業務において、報告件数が減少している。

資料に小型船組合による注意喚起回数の表を記載しておりますが、平成22年度の11件をピークに減少しており、平成28年度はゼロ件、平成29年度は9月末での報告ではありますが、1件となっております。この1件につきましても、灯浮標に釣り用ボートを係留していたための注意喚起であり、避難船舶の投錨とは関係ありませんでした。

三つ目、避難船舶は灯浮標が設置されているため、浮標付近を避けて投錨しており、浮標は単体より複数で連続して設置することにより効果が高くなること。

四つ目、荒天時の避難船舶の停泊場所については、沖から直線となる取水管A、送水管A、B付近での停泊の可能性は低いと考えます。

以上、4点について検討した結果、取水管B、Cの2基について係留索を取りかえて再設置し、レンジライトとあわせた安全対策を図ります。なお、残り3基については、引き揚げた灯浮標を陸上保管し、補修した上で、今後予想される灯浮標本体整備における交換用として使用することで、その際の作業及び費用の軽減が図れるものと考えております。

5ページをごらんください。

係留索の材質についても検討いたしましたので、あわせて御報告いたします。

現状の係留索においては、摩耗、損傷の進んでいる箇所は海底付近であり、天候や干満の差により海底と接触する部分であることから、耐久性が高く、コストも抑えられる材質がないかと検討いたしました。

被覆ワイヤに関しては、海底部分に使用すると海底の砂等により被覆が損傷し、被覆内部に混入することで摩耗が激しくなるため、海底部分には適しません。また、ロープについては、比重が軽く海底部分との接触がないため、水深1,000メートル以上の中層型浮漁礁での実績はあるものの、浅い水深での実績はなく、耐久性についても現状では不確定となっております。

つきましては、係留索の材質は変更せず、現状7年間使用実績のある被覆ワイヤとスタッドリンクチェーンを使用する方針といたしたいと考えております。

説明は以上でございます。

○三鬼（和）委員長　以上、執行部担当のほうより説明していただきました。

前回の12月議会におきましては、特に5基必要なのかということ、特に三木里側には船舶の停泊はないのではという御意見であるとか、材質、それから場所等々が指摘があったということ踏まえて、今回の主な検討事項になっておるようです。

これらのことを踏まえて、委員の皆さんから御意見ございましたら。できましたら、1回の質問に3度ぐらいしたら次の方にかわっていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。質問が変わったら、またしていただいたら結構ですから。

○小川委員　じゃ、資料の5ページのところなんですけれども、ロープの場合、比重が軽くというところがありますけれども、これ、簡易的な、今、使っているやつじゃなしに、簡易的なやつに変えた場合、違うやり方も、ロープを使ったり、そういう方法もできると思うんですけど、ずっとこれでやっていく、一緒の方法でやっていくというのを、その理由というか、今後、また7年後にも、またこれだけ予算がかかると思うんですけど、これでやっていくというような理由、もし理由があれば、簡易的な方法にできない理由があれば教えていただけますか。

○苫谷水産商工食のまち課係長　まず1点が、現状の灯浮標本体につきましては、まだ使用できるというところがまず1点。簡易的なものを設置するという場合に、ロープでできるというところも出てくるとは思うんですが、作業に係る潜水士の費用負担、あとはリスク等々がありますので、本市のこの取水管B、Cの場合、水深が45メートル、50メートルと深くなっておりますので、潜水士に係る費用、作業リスクというものがございまして、現状、今の灯浮標を使用するというのが一番よい方法ではないかと考えております。

○小川委員　潜水士とか、結構作業がかかるということなんですけど、その作業の工程、どういうやり方をやるとか、そういうのも検討されたと思うんですけど、今回これをやるに当たって、どういう方法でやるというのがもしわかれば。

○苫谷水産商工食のまち課係長　今回の作業につきましては、クレーン船を使いまして海上で灯浮標をまずクレーン船に引き揚げて、ワイヤとチェーンの部分の間を一回カットするという形で、その前にチェーンのほうには、クレーンの玉がけをして、一旦、灯浮標とその一部を船に引き揚げ、一旦、途中で係留索を切ります。残りのチェーンとアンカーのほうを船上に引き揚げて、古い係留索のほうを外して

新しいものに取りかえて再設置します。GPS等で位置確認をする、あとは、海底の状況につきましては水中カメラで海底の設置状況のほうを確認して、1基の作業が終了という予定となっております。

○小川委員　やはり簡易的にしたほうがお金もかからないんじゃないかと思うんですけども、ダイバーって結構深いところへ行くと、1日10分とか15分しか潜ったらあかんとか、そういう法律もあると思うんですけど、これ、しようと思ったら結構な、1日に仕事をしようと思ったらダイバーの数もたくさん要すると思うし、クレーン船とかも結構、こっちの部分でお金がかかるのかなと思うんですけど、そんなこともあって簡易的ということをおっしゃっていただいたんですけど、それはどういうふうな検討、先ほど言われましたけど、検討した結果、やっぱりこれじゃないかという感じで。どうも納得がいかないのは、7年後にもまたダイバーを使ってお金がぼんぼん、一緒ぐらいかかるというの、もっとええ方法があるんじゃないかなと思うんですけど、どこか検討、有識者じゃないですけど、そういうところで相談とか、そういうものをされたんでしょうか。

○苫谷水産商工食のまち課係長　実はロープのメーカーさんで、海洋構造物に使用するロープを開発したメーカーさんが最近ありまして、そこでもお話とかもお伺いはしたんですけども、ロープに関しましては、現状では耐久、耐用年数というの、5年というふうにおっしゃって見えまして。うちは現状7年、かえるときに7年半から8年ぐらいで交換になるかと思えます。そうすると、3回の交換と2回の交換ということで、1回分の交換の費用というのがまず余分にかかる。それでもロープのほうで費用がかからないということもありますけど、そのロープの利点でありますクレーン船を使用しないというところはあるんですけど、先ほども申しましたように、水深が45メートル、50メートルと深いものですから、潜水士の作業、潜水士、40メートルを超す場合はまたちょっと危険度が増すということで費用と、作業時間も10分程度となりますので、そうしますと、1日にかかる潜水士さんの数というのにも必要になりますし、潜水作業は次々次々できるわけではなくて、1日に1回潜って、休憩時間をとってということで、そういった費用を勘案すると、それほどロープにはメリットがないということ。メーカーさんのほうにもそういったことは投げかけもしたんですけども、大きなメリットというところの御提案がなかったもので、現状は今のやり方というのが、担当としては一番よいのかなと考えております。

○小川委員　それと、クレーン船で引き揚げると思うんですけど、方塊というん

ですか、コンクリートブロックの3トンぐらいのやつ、あれの取り付け部分、金属でできていると思うんですけど、その確認も船上でちゃんと行って、もう一回やるわけですか。

○苫谷水産商工食のまち課係長 方塊の取り付け部分に関しましては、今回の潜水調査の写真を見てもまだ傷みはないですし、チェーンがかなり長くなっておりまして、そこまで影響が及ばないような仕組みにもなっているのかなというところがまず1点と、あと、引き揚げて確認して、そのままもう一度使う予定なんですけれども、近隣で設置しているところにも確認をちょっと取りましたが、アンカーの接続部分については傷んでいないのでそのまま使っておりますというような回答を得られましたので、アンカーにつきましては、現状のものを再利用するという事で考えております。

○三鬼（和）委員長 他にございませんか。

○三鬼（孝）委員 今、係長からいろいろ説明がありましたけれども、この灯浮標のチェーンの取りかえは、平成28年の当初予算で2,800万ぐらい計上されたのかな。それで、私が修正の（聴取不能）を出して全会一致で認められたんやけれども、その後はあれですか、今、説明ありましたけれども、修正をかけるときに原課にも言いましたけれども、送水管のほう、低気圧なり、台風の時期に内航船があそこまで来ておらんよという説明をさせてもらって、今回、これ、二つと片側のほうを1個引き揚げて、今2個だけだよということですね。その辺のところは評価できるのやけれども、担当課はあれですか、28年の修正をされた後、2年たっておらんやけれども、低気圧とか台風時に三木里側の送水管の上、船舶が停泊しておるかどうかという調査を何回されておるのやな。

○苫谷水産商工食のまち課係長 済みません、調査の回数と言われると、調査のほうは、実際は行っておりませんが、関係のところの聞き取りというのはさせていただいておりますし、実際この送水管、取水管を三つ外すという検討をするに当たり、鳥羽商船の先生にお話、船舶の動き等々についてもお話をいただきまして、三木里側の確率はそう高くないというところがまず1点と、あと、地元の方等に、どうですかということは聞きまして、そこで船舶のほうは余りそこはいないよということでしたので、担当としては、三木里側のほうを撤去するという結論のほうを出させていただいております。

○三鬼（孝）委員 課長、なぜ調査に行かないんですか。議会で質疑されて、あれだけ2,800万も計上して、修正されて、その後どうしてそういう調査をしな

かったの。

○野地水産商工食のまち課長　　アクアステーションのほうで監視はいただいているというふうなことがあって、それで付近にあった場合については船舶電話で話したり、それについてはアクアステーションの管理者のほうで心がけていただいているというのが1点あります。あと、古江の小型船組合にもその辺については、停泊している船があれば注意喚起をお願いするというふうな形でさせていただいておりますので、その辺の部分から勘案した上で今回判断させていただいているというふうな形でございます。

○三鬼（孝）委員　　3月議会で2基のをやるんでしょうけれども、そういう説明をするときに、ほかの議員さんも送水管のほう、なぜやらないんだというような説明があろうと思うんやけれども、そういうふうに調査に行っていないということになると、現実的に担当課がいろいろ問題があるんじゃないですか。

それはそれとして、今、50%残っておるんでしょう、摩耗率が、50%。まだ50%残って、切れるという保証もないし、切れないという保証もないわな、当然。これ、どういうふうに判断するかということやけれども、まだ50%残っておるでまだ十分もつんじゃないかという考え方のほうが強いんじゃないかなと思うけど、市長、その辺はどうですか。

○加藤市長　　今回の限界点が50%ということが限界点なんですよね。摩耗率が50%になるということは、これが切れる可能性が非常に大であるという専門家からのお話は聞いておまして、結局その話で、やはり50%になれば、到達すれば、やはり交換しなきゃならないという報告を受けまして判断したわけでございますけれども。

○三鬼（孝）委員　　耐用年数の問題も言いましたけれども、耐用年数というのは税法上の耐用年数を言っておるわけで、実際に耐用年数だからそれがだめだということは、現実的に建物にしても構築物にしても、いろんな備品にしても、耐用年数が済んでも倍以上、3倍以上もっておるのはあるわな。だから、耐用年数は余り当てにならん。しかし、50%も残っておるんやで、まだ二、三年やそこらは絶対切れんですよ。その辺、僕はそうやって思うんやけれども、これ、切れたときの場合も考えたときに、やっぱりこれ、大変なことも起きるんかなと思うけれども、しかし、現状50%残っておるんやで、財政的にいろいろ余裕がないときに、やっぱりまだこれ、やらんなんのかなという問題があると思うんやけどな。その辺、市長さん、財政的な問題、どのようですか。

- 加藤市長 事業概要で御説明させていただいたとおり、この灯浮標の係留索については、ここにも列記しておりますけれども、10%から20%の摩耗率で交換しておるのが大体通常ということをお聞きしております。それが50%ということになると、これが切れる可能性というのが非常に強いと、切れた場合にどうなのかというような話が次のステップであると思うんですね。非常に危険であると、危険であるものをそういう専門家からそういう御指摘があった中で判断しなければならないときに、やはりこういうリスクに対する対応ということはきちんとやっていかなきゃならないと。その中で最低限のものだけはやらなきゃならないと、そういう考え方で今回、方針を御報告させていただいているというところでございます。
- 三鬼（孝）委員 それで、そのチェーン、取りかえる、同じ材質でやるのかな。それともあれですか、別個のほうでワイヤロープなんかも使ってやるのかという方法もあると思うんですけども、その辺の実際やる材質なんかについてはどんな。
- 苫谷水産商工食のまち課係長 材質につきましても検討のほうはさせていただいたんですが、ワイヤロープの部分につきましては、海底部分には被覆ワイヤ、ワイヤも同じなんですけれども、細いものをよってやっていますので、そのすき間に海底の砂等が入りますと、より摩耗が進むという現象が起きますので、海底部分に関しましてはワイヤ、被覆ワイヤ、どちらにしても適さないということに至りました。あとは、考えられるものがロープと現状のチェーンとというところで、ロープにつきましては、現状の耐久性というところが、今現状のチェーンよりかは短いというところで、交換頻度が高くなるとそれだけコストも高くなってしまうというところ、あと、安全性のところを考慮して、現状のスタッドリンクチェーンというものが一番、現状選択できる中では一番適しているという判断で、材料のほうはそのままさせていただきたいと考えております。
- 奥田委員 4ページのところでちょっと確認したいんですけれども、今、5基ある灯浮標、その内の古江側の2基を取りかえるということなんですけれども、4ページの下のところ、残り3基については、引き揚げた灯浮標を陸上保管し、補修した上で今後予想される灯浮標本体整備においての交換用として使用すると書いてあるんですけど、陸上に引き揚げるのは5基、引き揚げますよね。そのうちの3基を補修するということなんですか。
- 苫谷水産商工食のまち課係長 今回は、係留索のみの交換になりますので、2基はそのまま係留索を交換して本体はそのまま、また。本体3基につきましては陸上で保管をして、あと、上の灯籠部分が故障したりとか、あとは全体的な塗装の塗

り直しが必要になるときというのがやってまいりますので、そういったときにその部分を補修した上で取りかえると、作業の日数、費用等々も軽減できるのではないかとということで、3基のほうは陸上のほうで保管して使用したいと考えております。

○奥田委員 わかりました。

それと、3月の予算決算常任委員会での審議になると思うんですけど、2基を取りかえて、残りの3基の灯浮標については補修すると、これ、予算的にはどのぐらいになるんですか。

○三鬼（和）委員長 奥田委員、予算決算委員会で……。

（「いやいや、つかみで」と呼ぶ者あり）

○三鬼（和）委員長 つかみでって、半分ぐらいになるのか、先ほどの説明の中では潜水夫の部分がかなり、両委員の質問の中では潜水夫のあれがありましてって、あれなんですけど、答えられる範囲で。

○加藤市長 これは当然、先ほど御指摘のとおり、予算決算委員会のほうの審議事項になると思いますのですけれども、今、事実わかっていますのは、5基で2,800万であると、1基当たりで計算したらどれだけかというような計算にはなりません。当然ながら、要するに基盤を整備する、要するに全体をする作業工程がありますから。そうすると、5分の2にはならないと、金額は。5分の2にはならないと、ちょっと上になると、そういうあれでよろしくお願ひしたいと思っています。

○奥田委員 そうすると、2,800万の5分の2というと1,120万ですから、それ以上にはなるということですかね。

○加藤市長 そういうお考え、そういう計算で類推していただければと思っております。

○内山副委員長 確認なんですけど、保管方法と保管場所、もしくは保管に倉庫などが必要なのかどうか、お聞かせください。

○苫谷水産商工食のまち課係長 保管につきましては、アクアステーションの横の空き地のほうで考えております。灯浮標は海の上に浮かんでいる性質上、そのまま置いておいても問題がないというメーカーのほうの確認がとれておりますのでそのまま、倉庫等は必要ないということで雨ざらしでも全然大丈夫ということですので、そういった形で。ただ、形状で、丸い形状になりますので風等で、500キロぐらいはありますのでそうそう転がることはないとは思いますが、そういった安全の部分のみ考慮した保管の方法をとりたいと考えております。

○三鬼（和）委員長 他にございませんか。

○上岡委員　もうほとんど皆さん、聞いていただいたので。一つは、先ほどから専門家に聞いたという言葉が出てくるんですけども、今度、きょうは多分用意されていないと思うんですけども、専門家から聞いた資料の文面とかを用意していただきたいし、どの方に聞いたとかというのをぜひできれば用意していただきたい。専門家といってもいろいろいますので、そのあたり、お聞きしたいのと、海の警察は海上保安庁、尾鷲にあります。そのあたりには聞いているのかどうか、一番、尾鷲市には海上保安庁がありますので、そのあたりを聞いていないのか聞いているのか、ちょっとお聞きしたい。

○三鬼（和）委員長　係長、新たな委員さんですので、初めのころは海上保安部等の話を、ちょっとさかのぼりますけど、その辺の紹介をお願いします。

○苫谷水産商工食のまち課係長　海上保安部に関しましては、海上保安部の尾鷲湾内にある灯浮標もごございますので、そういったところの取りかえについてとかというところ、あと、愛知県のほうに整備工場もごございますので、そういったところでも問い合わせ等はさせていただいております。

海上保安部のほうの尾鷲湾内に設置しております灯浮標に限りましては4年間で交換ということで、海上保安庁のほうは灯浮標をいろいろ設置しておりますので、そういった交換に関するデータというものをとりまして、どれだけ減ったから交換ということではなくて、もう4年で大体1割ちょっと減るんですけども、そういったところで4年サイクルでかえていくというふうには伺っております。

専門家については、文面というのは一応、鳥羽商船の船舶の大型船の動きについては鳥羽商船の先生にお聞きさせていただきましたし、あとは、設計等々につきましては日本航路標識協会というところに委託しておりますので、そういったところでお話を伺ったりというところで。日本航路標識協会というところがございまして、そちらで設置当初の設計もお願いしておりますので、そういったところでもお話をお伺いしましたし、あと、ロープ、チェーン等々はメーカーさんに直接電話で話を伺ったりというところで、いろいろなところでお話は伺いさせていただいて、総合的にというか、判断をさせていただいたところでございます。

○上岡委員　今回の2基で大丈夫であろうという、船舶が来ても2基で大丈夫であろうというのは、海上保安庁には一応お聞きはしていますか。

○苫谷水産商工食のまち課係長　本市の灯浮標の性質上、本市の取水管、送水管が海底に敷設されていますという目印の浮標になりますので、航行の安全のために設置する浮標とは性質が違います。ですので、海上保安部のほうに大丈夫ですかと

いうふうな問いかけに関しましては、尾鷲市さんが設置しているので尾鷲市さんで御判断されればという御回答になりますので。ですので、海上保安部がここに設置しなさいというふうに言われて設置したものではないので、ただ、その波であったりとかというアドバイスというか、現状どうなんですかというようなところに関しては、お伺いはできるところなんですけれども、現状そういうところでございます。

○三鬼（和）委員長 他にございませんか。

先ほど上岡委員から説明があつて、本市が設置したので本市で管理しなくちゃいけないという中で、この事故の後に地震のセンサーが来る線が引かれておりますよね。そういったことを踏まえて、海図とかそういうものに今まで以上にその辺が反映されておるとかということはどうなんですか。その辺は確認というか調べてはいないんですか。これは事故の後、こういったことがあったら困るということで、送水管にもよろいというのか、補強をしましたよね、海洋深層水の管理も補強もしておるし、その後にこの管を挟むように、地震の探知機の古江の旧小学校まで行っておる線を張ったと思うんですね。そういったことを踏まえて、海図には今まで以上にその部分が載っておるとか云々というのはどうなんですか、これは。

○苫谷水産商工食のまち課係長 済みません、うちにある海図が取水管敷設当初に記載されたちょっと古い海図になりますので、最新のものをというのにはちょっと確認はとれておりません。また確認のほうをしておきたいと思えます。

○三鬼（和）委員長 他にございませんか。

○奥田委員 関連で、ちょっと市長にお伺いしたいんですけど、今回でも、これ、1,100万以上の当初予算が上がってくるということなんですけど、今、水の売り上げも深層水、250万ぐらいでしたっけね、どんどん減っていますよね。そういう中で、維持管理費が結構かかっているという状況の中で、市長、以前、どなただったかな、一般質問の中で深層水は負の遺産やということを言われたような気がするんですけど、今後この深層水に関してどのようにお考えですか、深層水事業について。

○加藤市長 大変難しいですね。正直言って、御承知のとおり、補助金事業で成り立った事業でございますので、やめるわけにはいかないと。やっぱり費用対効果の話になろうかと思っております。現状ではおっしゃるように、要するに経費が非常に大きくて、売り上げが少ない、これ、事実でございます。そのために赤字が大きいと。ただ、間接的な収入としてそれでカバーしていると、結果赤字になっていると。それを何年続ける気やという、そういう御質問は当然出ようかと思っております。

ます。

ただ、一方では補助金の問題もあって、あと、正直申しまして、それに対する減価償却等々がまだ十分かなり残っております。そういった状況を判断しながら、今後、今も徐々にはやっているんですけども、海洋深層水をいかにして、大変厳しい市場の中で、少しでもやっぱり収益が上がる方法というのは、本当に今後、重要視しながらそういう収益を上げるための事業ということをきちんと考えながら、どンドンどンドン進めざるを得ないんですよ、それしかないと思っています。一方では、いろんな経費の面についても洗い直しということも考えながら、要するに、今の現状の赤字をどれだけとめていくかというようなことぐらいしか、今の状況を考えますと、その方法しかないんじゃないかなと私は考えております。

○奥田委員　　もっと深層水を、名柄の工業団地の会社もほとんど使って、1日何トンでしたかね、110トンでしたっけ、結構送水しているにもかかわらず、ほとんど捨てているというような状況があって、あれ、5%でしたっけ、今、深層水、あそこが。あと95%が井戸水という水ですよ、古道……。

(「地下水」と呼ぶ者あり)

○奥田委員　　地下水の古道水ですよ。ですから、もっと深層水を使ってもらえるような、売上げがぐっと上がるような施策をしていかないと。当初は500万くらいあったんですよ、あれ。でも、今250万ぐらいに半減していて。ですので、その辺のところ、ぜひ市長のリーダーシップのもとでやっていただきたいと思いますけど。

○加藤市長　　まさしく奥田委員のおっしゃるとおりだと思います。これについては本当に正直申しまして、今後の深層水の需要を高めるということを今、我々でも研究しております。具体的にどういうものがあるのかというような、今、はやりの陸上養殖とか、いろんなものもありますけれども、それと並行させていながら深層水の需要を高めるとか、いろんな需要というものの用途について、いろいろ今、研究中でございます。当然そういうことが、正直言って、この一年、二年でできるわけじゃないんですよ。やっぱり数年、早くたって何年間の時間。今、そういうことについて、少しでも深層水の収益を上げるために細々とやったとしても、たかが知れているわけなんです、ウン万円ウン十万円の話。そういったことも加味しながら、今後、深層水事業をどうするかというよりも、深層水をどうやって需要を高めていながら、収益を多少なりとも上げていくかって。今の状況ではこの方法しか僕は考えられないと思っています。

一方では、先ほど申しましたように、補助金等々の問題のように、そのやっばり比較論になってしまうと思いますので、ちょっとその辺のところも。しかし、やっばりせっかくつくったものですから、やはりそれを、需要を高める方法というのは、やっばりきちんと進めていかなきゃならないという、そういう認識は十分持っております。

○三鬼（和）委員長　他にございませんか。

今回、委員のほうから指摘がありましたように、三木里側というか送水、今の営業の話も出ておりましたけど、灯浮標、三木里側のほうがなくなるということで、一つは、先ほど三鬼孝之委員からも、その辺の監視はしてきたんかということがございまして、古江の小型船舶の皆さんに、なくなったほうの部分の監視の強化というんですか、船を動かしたりとか監視するって、指定管理しておる商工会議所さんのところの事務所とともに監視の強化がこれ以上に要すると思うんですね、今後、あの辺を減らすとなると。1点はそれと、もう一点は、予備とするということで、陸上に保管する部分の機材に関する野ざらしは大丈夫だということがありますけど、反対に子供たちがそこへ上ったりとかして事故とかがないような保管の方法が肝要ではないかなと思います。

もう一点は、これは議論に出てくることですが、この送水管、三木里への送水管がある中では、いわゆるインキュベーションした企業に水を、海洋深層水を使っただけというインキュベーション事業でありましたので、基本料金をいただくという形の、使っても使わなくても水道料金みたいに基本料金をいただくという形の交渉の仕方もあろうかと思っておりますので、本日、こういったこと、灯浮標を少なくするという中で、深層水の課題とあわせて事業を進めていくということですから、こういったことを踏まえて御検討願いたいと思っておりますので、ひとつよろしくお願ひします。

ほかに。

○野地水産商工食のまち課長　委員長、済みません、1点だけ、深層水関連の情報ということで、ちょっと情報提供をさせていただきます。

実は海洋深層水の塩ラーメンの件なんですけど、今回のこの本委員会のほうで、一度深層水関係の管内視察の際に、モクモクしお学舎からいろいろお話を当時させていただいております。今、同社が製造する深層水塩を活用した塩ラーメンの開発がおおむね完了してきたというふうな状況を直近でいただきましたので、これを受けて、4月初旬を目途として夢古道おわせのレストランコーナーの夜間営業の形とし

て、塩ラーメン店をオープンする運びで、今、最終調整を実施主体であるモクモクしお学舎と株式会社熊野古道おわせで最終調整を始めているというふうな状況がありますので、多分日程的に言うと、3月の定例会の委員会等で4月の初旬のオープンに向けてということで詳細報告ができるかと思っておりますので、少し関連事項として報告させていただきます。

○三鬼（和）委員長　この委員会、2度メンバーがかわったりとか、年代がかわっていますけど、2度視察して2年、延べ2年というか、まるっと2年延びておるといふか、発想からは1年以上延びておるといふことなんですけど、3月議会で、しお学舎さんとの情報を踏まえて、また報告していただくということなんですけど、この際、問い合わせしておきたいようなことがあれば、ここでちょっと注文というか、あれなんですけど、その辺はいかがですか。

○南議長　委員外発言ということなんですけど、めったにしないんですけれども、今の、確か1年前にも課長のほうから同じ報告されたと思うんですが、今度は間違いなく本当なんだろうね、本当に。なぜこういうことを僕は発言するかというと、モクモクしお学舎なんかも、当然今、委員長が、LDビバレッジへ6億、7億かけて送水管も引き、また、モクモクしお学舎でも6,000万、7,000万かけて塩の体験学習を子供を中心にするということで、現実に投資しておるんだけど、にもかかわらず全く体験学習をやっていないわけなんです。そういう意味で、古江の人なんかも僕もそうなんですけれども、物すごくしお学舎については不信感を抱いております。そういったことで、もう一回改めて契約事項なんかも確認していただいて、しっかりした対応をしていかないことには、委員会で1年前も言ったことを平気で今度はこういう予定ですって、信用できないですよ、本当の話ね。そういった意味では、行政としたら毅然とした態度でモクモクしお学舎等とはしっかりと指導をしていただきたいと思います。強く要請します。

以上です。

○野地水産商工食のまち課長　先般も確認のほうでさせていただいていて、議長の今言われた意見も踏まえて、こちらからも確認をしながら進めてまいりたいと思っておりますので、また報告のほうをさせていただきます。

○三鬼（和）委員長　今、議長からも御指摘ございましたように、名柄につきましても海洋深層水事業のインキュベーションとしてスタートしておりますし、しお学舎しかり、同じということで、民間会社でありながら公共性も高いというか、そういった形で進めていただいております。確かに税収とかそういった問題とか、雇

用の問題の貢献はございますけど、やっぱり海洋深層水のまちとして事業をスタートしておりますので、その辺につきましても、執行部も現経営陣と再確認をしていただきたいと思いますので、ひとつよろしくお願いします。

そのほかにもございませんね。

それでは、執行部の皆さん、委員会を閉じたいと思いますので、御苦労さまでございました。

委員の皆さんにはほかに、その他に何か委員会についてございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○三鬼(和)委員長　　じゃ、委員会をこれで閉じたいと思います。御苦労さまでございました。

(午前10時51分 閉会)